

しらつをや灯の入る前の店に酌む

山田真砂年

白魚の平仮名表記もさることながら、調べの美しさに感じ入った。夕暮は近づいてはいるもののまだどこも灯つていない。春の到来を感じさせる白魚を着に静かに酒を酌み交わしているのである。否、ここは一人なのかもしれない。白魚の透明感と微妙な時間帯は、春先ならではの繊細さである。